

東日本大震災復興支援特別紙面

Vol.6

RA
Media Team
復興支援メディア隊



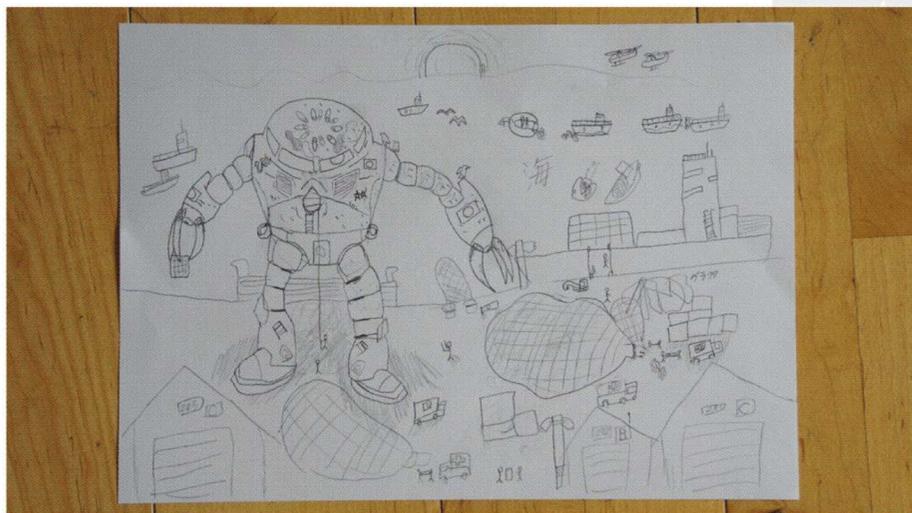
2011-5-13 会津若松市。大熊町から町ごと皆で引っ越しをして来た。廃校になった校舎を使い、大熊中学校がスタートすることが決まり、大掃除をした。

廃校が大活躍。



2011-6-19 会津若松市。ボランティアで遊びに来てくれたお兄さんたちと、楽しい1日を過ごした。東山温泉の芦名旅館の若女将と、大熊町から避難している子供たちは、まるで親子のよう。

ちゃんと乗ったら、出発！



2011-5-19 釜石中学校の生徒が描いたロボットの絵。「これがあれば、皆を助けられる」陸はもちろん、海の中でも稼働し、人命救助、瓦礫の撤去をする。

日本なら、出来る。

被災地の子供たちが撮った 写真の中にみる 復興への足音

今回の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。大震災は日本全体に大きな被害を及ぼす大惨事となっています。しかし、被災地の復興活動は今まさに大きく動いています。NPO法人映像情報士協会が中心となって立ち上げられた「復興支援メディア隊」は、被災地の映像情報を大量に配信することで風評被害の影響軽減を目指しています。その活動の一つとして、被災地の小中学生らこどもたちにカメラを提供し、こどもたちの眼がとらえた復興の真実の姿を発信しています。震災後、被災地やその近隣支援地はもとより、日本中から助け合いの動きが起こり、「秩序ある復興」が粛々と進んでいます。映像からそうした状況を見ることにより、被災地から遠く離れていても、復興の足取りを正しく理解し、協力の手段を考えることができるはず。

復興を支援する産業界各社と、日刊工業新聞社は復興支援メディア隊の活動に賛同し、その情報発信活動を支援します。

公式 web サイト



<http://www.ramediateam.org>

You Tube ページ



映像を You Tube チャンネルとしてご覧頂けます。
<http://www.youtube.com/user/RAmediateam#p/u>

facebook ページ



企画制作：日刊工業新聞社・NPO法人 映像情報士協会

昭和27年、電源開発促進法案が国会で成立。これが私たちのスタートになりました。戦後の復興を担う、大規模水力発電所をどこにつくるか。水量の豊かさなどの条件から、岐阜県を流れる庄川上流にある御母衣(みぼろ)が開発地点に決まりました。このダムの建設によって、湖底に沈むことになる村で、高崎達之助(当社初代総裁)は、大きな老松に目を留めます。はるか昔からこの地で、村の人々を見守ってきた老松。「この松をなんとかしても助けない」。高崎はそう熱望しました。昭和35年12月、移動距離600メートル、高低差50メートルの、世界でも前例がないであろう「世紀の大移植」は完了しました。待ち望んだ翌春、芽吹き、奇跡的に根を下ろしたのです。今は御母衣湖畔に立つ2本。樹齢450年以上。ふるさとの地の名をとって「庄川松」と名づけられました。

電気をつくり続けて、半世紀を越えました。私たちは今、「エネルギーと環境の共生」をテーマに、21世紀を歩んでいます。創業まもなく完成した御母衣ダムゆかりの庄川松は、まさに、私たちの原点であると言えます。かけがえない地球のために。夢のある未来のために。そのためのパワーをお届けしたい私たちは、J-POWER(電源開発)です。



電源開発株式会社 〒104-8165 東京都中央区銀座6-15-1 <http://www.jpowers.co.jp>

私たちは復興支援メディア隊を応援しています。



移植して50年。
庄川松は、私たちの原点です。

撮影：前川彰一